

戦後香港の政治思潮と両岸関係

——『聯合評論』と『盤古』を中心に——（仮）

津田塾大学 中村元哉

大陸中国と台湾と香港のトライアングル関係は、戦後香港においては、極めて単純化すれば、下記の表のような政治思潮を生み出した。本報告では、台湾の中華民国憲法に基づく憲政を支持し、その意味において反共ではあったが、独裁化をすすめる国民党をも厳しく批判した『聯合評論』と、この自由主義派と同じく反共の姿勢を示しつつも、この一派とは一線を画しながら海外華人の結束を呼びかけ、やがて反共から親共へと変質していった国粋派（毛沢東派）の『盤古』に注目する。そして、いずれの政治思潮も、1960年代後半から1970年代前半にかけて、新儒家と同じように影響力を低下させていき、これが香港アイデンティティを探り始めた1970年代の社会派（本土派）の高揚をもたらす一因となったことを示す。

《戦後香港における主要な新聞・雑誌》

政治的立場・主義主張	1945-1949	1950's	1960's	1970's
台湾〔民国〕→国民党+米国	『国民日報』 『工商日報』	『香港時報』 『工商日報』 (九龍・荃湾暴動)	『香港時報』 『工商日報』	『香港時報』 『工商日報』
大陸中国〔人民共和国〕 →共産党= <u>国粋派</u> （文革期の毛沢東派）	(地下活動の拠点)	新華社 『大公報』	新華社 『大公報』 (文革の開始) (六七暴動)	新華社 『大公報』 『盤古』 『七十年代』 (文革の収束)
香港〔英国〕→政財界	(香港大学)	(香港大学)	(中文大学)	(中文大学)
香港〔民国／民主憲政〕→ 青年・民社党= <u>自由主義派</u>	(非合法化後の民盟が香港へ)	『再生』 『自由陣線』	『聯合評論』	『七十年代』
香港〔中華〕→新儒家= <u>中華アイデンティティ派</u>	(嶺南学派)	『民主評論』	『民主評論』	—
香港〔反共・親台 but 非国民党系〕→新世代の香港アイデンティティ= <u>社会派</u> = <u>本土派</u>	—	『中国学生週報』 『祖国』	『中国学生週報』 『祖国』 『明報』 『盤古』	『中国学生週報』 『祖国』 『明報』